

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790800050
法人名	西野興産株式会社
事業所名	グループホーム やまもと
所在地	香川県三豊市山本町辻367-1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 8 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790800050-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790800050-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 17 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりのできることに目を向け、できることを行ってもらいながら日々の生活が楽しく送れるように支援している。  
 ・天気の良い日は、近隣を散歩し気分転換を図るとともに下肢筋力の維持に努めている。  
 ・玄関は日中は施錠をせず自由に入出りができるようにしている。  
 ・事業所の近くに畑を借り野菜作りをすることで、季節感や収穫の喜び・食材への話題が広がるように努めている。  
 ・地域の人は、畑のことを気にかけてくれたり、自宅で収穫した野菜を持ってきてくれる人もいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がベンチに腰掛け、挨拶をしてくれた事からスタートとなり、その利用者の上に大きく掲げられた理念が目に飛び込んできた。聞く所に因ると、元教師の利用者が達筆に筆を走らせ、言葉らしくしたそうだった。また、リビングにて、サブタイトルの『今日も一日元気に笑顔で暮らしましょう！』と利用者大きな声で唱和して、明るく元気な一日を始めている。また、職員が貸して頂いた畑を耕せないと悲鳴を上げると、貸主や地域の方や近所の方が代打で手伝ってくれ収穫となった。そんな地域に巻き込まれ、繋がりを形作っている。コロナでも寒くても、外への散歩を当たり前に行っている利用者は、いっぱいの人に囲まれ、集ったり、心から支えられたりして、一歩、二歩、散歩と歴史を刻んでいた。職員や利用者から地域の人までが、理念の成文化まで参画しているところが驚きである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。居間には、サブタイトルを掲示し朝の体操後に唱和し、共有するようにしている。	理念は、利用者が筆文字で大きく書いて下さったものを玄関に掲示し、理念のサブタイトルをフロアに掲示して、毎朝、利用者と唱和して覇気を出そうと取り組んでいる。新入職者には、初日のオリエンテーションから、リーダーが1ヶ月付いて、理念に即した技術を学ばせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や、近隣の畑作業をする中で近隣の人と挨拶したり交流が持てるようにしている。地域の井出ざらえにも参加している。	開業10年の内に、近所の方が畑を無料で貸してくれる様になったり、自ら耕してくれて「はよ植えよう」、「これ植えよう」と玉ねぎや大根や百花等を植えたり、手入れや収穫をして、地域の方と馴染みの関係を深めている。庭の花を持って来てくれる近所の方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物に出掛け、挨拶や立ち話の中で、地域の人々に認知症になっても生き生き生活できることを理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の民生委員・地域包括支援センター・ご利用者やご家族に参加していただいているが、コロナ感染者が多いときにはご利用者やご家族には参加してもらわず少人数で行っている。事業所のサービスの向上に生かすようにしている。	隔月に開催を継続。利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター等が参加してくれる。民生委員は、行事を大切に思い、葉牡丹や旬の野菜を届けてくれる。民生委員が欠席する時は、元民生委員が代打を勤めてくれる。また、参加者が少ない時は、駐在さんに一声かけると、気軽に参加してくれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の入退の相談や困難事例については、市役所や地域包括支援センターに相談し助言を得るようにしている。	窓口は、管理者が行っている。何でも気軽に話せる関係が従来から築けている。特に地域包括支援センターは、運営推進会議に参加されるので、地域の情報を共有しやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠しておらず、外に出ようとする利用者には声掛けしたり、施設の周辺を一緒に散歩したり、さりげなく話題を変えるなどの工夫をしている。	研修は年2回開催して、外部研修に参加した職員が資料を独自に作成し、職員からアンケートを取る形式で、新しい情報や技術を周知し、職員と共有している。玄関は、19時から施錠し、徘徊の強い方は、ベッドの足元にセンサーマットを敷いて、職員が直ぐに駆けつけられる様にしている。	年度内に、もう1回研修をされるとの事なので、新たな手法として、on-lineを取り入れては如何でしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にご利用者の側に立ち、言葉遣いや態度に注意するように話し合っている。また、その都度注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、関係機関と相談しながら支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、ご利用者やご家族に納得が得られるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご利用者やご家族に出席してもらい、意見などを外部者へ表せる機会を設けるようにしている。また、面会時や電話にて家族に話が聞けるように努めている。	家族の意見は、面会の時に聞き取る。利用者とは、受診同時時や入浴タイム、共に行う調理や洗濯時、利用者と職員とで楽しむティータイム等で自然に話に花が咲き、次のケアに活かしている。困難な場合には、生活歴を読み解いたり、表情を見たり、家族に聞き取ったりして把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員のミーティングを行い、意見や提案を聞いている。	毎月の会議には社長も出席し、業務の話し合いが和気藹々となされる。年2回、社長との面談があり、処遇関係の話題、プライベートの話も、ざっくばらんに出来る。管理者は、ストレス緩和に努め、ゲートキーパー役の職員がいて、些細な事でも、管理者に届く風土となっている。	職員意見はよく聞いて改善しているが、個々の介護に対する考え方を相談する事によって、統一した介護が出来るなど、質を上げて行ったらどうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心は研修などを通して、各自が成長できるように支援していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加できるように配慮したいが、コロナの状況で研修も減っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や三豊事業者協会などの研修会に参加し、同業者と交流が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人とご家族に面談を行い、不安を少しでも解消できるように努めている。ご本人が入居について不安がある場合は、見学に来てもらったり、ご本人が希望する環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の話を十分聴き、信頼関係が築けるように努めている。できるだけ、ご家族の要望に添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人の納得が得られず入居し環境の変化などによって、精神状態が不安定になったり入居の継続が困難と思われる利用者には、在宅サービスを勧めたり居宅支援事業所を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事の盛り付けや身の回りの片づけ・洗濯干しや洗濯たたみなど、ご利用者が活躍できる場面で積極的に取り組めるよう手順を説明し環境を整えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ利用者の健康面や生活状況について近況報告し、家族間の交流が図れ関係が途切れることのない様に配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように携帯電話を所持しているご利用者もいる。受診については、馴染みの病院へご家族に連れて行ってもらっている。	元民生委員や近所の畑の貸主や近隣住民や駐在さんが馴染みとなっていて、頻繁に散歩に出かけても安心できる。家族が通院を介助するついでに実家や馴染みの地域を通っている。また、リネン関係の業者さんや訪問理美容の方の出入り業者と挨拶や雑談も馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状に応じた支援によって、役割や活動で存在価値を高めたり、互いに助け合う場面では直ぐに介入せず見守り、ご利用者の考えや行動を尊重する支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、これまでの生活歴・趣味・職業などを把握し、その人らしい生活ができるように努めている。また、日々の生活の中でご利用者と話をして、希望や意向の把握に努めている。	「コロナで面会できなくなった妹に電話して欲しい」や、広告を見て、「ここへ行きたい」、「これが食べたい」等の意向を、散歩、日向ぼっこや入浴タイム、夜勤で個別ケアの時間に聞き取る場面が多い。困難な方は、表情やしぐさや生活歴を汲み取って把握しようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などを把握するように努めている。また、ご利用者の会話の中で、これまでの暮らしの把握ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一日の過ごし方を観察し、一人ひとりの現状の把握に努めている。ご本人のできることを、少しでも一緒にするように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、3ヶ月ごとにモニタリングを行って、介護計画に反映させている。月1回職員のミーティングを行って検討し、介護計画に反映している。	入居前に立てたプランを3ヶ月毎に、モニタリングとして見直す。この間に、状態や病状の変化に応じて見直している。担当者会議では、医師や看護師の意見も本人・家族と合わせて聞き取り、プランに盛り込んでいる。計画作成者は、ケアマネと担当の介護職員。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの実践や日々の様子を記入し、毎日の申し送りや申し送りノートで情報を共有しながらケアの実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な利用者には往診や理容訪問を行ってもらっている。また、コロナの感染者数が多いときやご家族が遠方にいる場合などで受診の付き添いができない場合は、受診の付き添いを職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの状況により、地域の祭りや行事などの中止が続いている。少人数でドライブに行ったり、近くのスーパーへ買い物に行くなど暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めており、受診はできるだけご家族にお願いしている。ご家族が都合つかず受診の付き添いができない場合は、職員が付き添って受診するようにしている。	かかりつけ医は、皆、馴染みの医師との関係を続けられる。出来るだけ、通院としており、原則、家族が介助していて、必要に応じて往診を頼んでいる。歯科のみ訪問している。どの医師とも何でも話せる関係が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ、状態の変化や異常に気付いた時は、看護師に相談し早期対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医や医療機関、ご家族と連絡をとりながら、ご利用者に安心していただけるように支援している。入院中は、少しでも早く退院できるように医療機関やご家族と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、入居時に事業所でできる範囲を説明し、ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所ができる範囲の支援を行っている。	原則、看取りは行っていない。重度化が進めば入院や入所の便宜を図る旨を入居前の重要事項として説明している。年間研修計画に、勉強の場を位置付けており、利用者の高齢化・重度化に応じたケアの方法を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや緊急連絡網を整備し、年2回の防災訓練は、ご利用者と職員で行っているが、その他の対策は行っていない。	年2回、火災の訓練を昼夜想定で、防災メンテナンス業者立会いの下、利用者と一緒に、訓練は、マニュアルに添って行う。緊急連絡網を完備している。備蓄は、水と乾物、米、スナック菓子、衛生材料などを3日分程度用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が生きてきた暮らし方や価値観を尊重し、敬意を持った関わり方や言葉かけを行うように努めている。	呼称は、苗字に「さん」を付ける。例外的に、家族に了解を得た上で、本人の馴染みの呼び方で呼ぶ事で、スムーズなケアに繋げている。入室時にはノックをして、一声かける。入浴時などは、極力、肌の露出を控えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できるような声かけや場面作りを、できるだけ行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は、おおむね職員の働きかけで一日のリズムを作っているが、その中でもご利用者のできる力を尊重して、ペースを合わせたり全体の調和を図っている。午後からは、トレーニングマシンを行うことを日課にしているご利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やクリームを使っているご利用者には、声掛けして使って頂けるように支援している。また、入浴時や外出時には、衣服の選択を一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや洗い物・お膳拭きなどは、ご利用者と職員と一緒にしている。畑で収穫した野菜の下処理をご利用者に行ってもらったり、収穫した野菜で漬物を作ったりしている。	三食手作りで、オルゴールのBGMを流しつつ、職員も一緒に食べている。本日のメインは、エビフライ。利用者は、箸も良く進み「美味しいですか？」の問いかけに、即「美味しいです」と返ってきた。畑の食材が食卓上がるのが日常。季節や行事に即した旬の食材や献立が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事や水分量を記入し、栄養不足や脱水にならないように気を配り、職員間で情報を共有するようにしている。食事量や水分量が少ないご利用者には、ご家族と相談して個別に食べれるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができるご利用者には毎食後、声掛けや誘導して行ってもらうようにしている。介助が必要なご利用者は、職員の介助により行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛けや誘導・介助にて、できるだけトイレにて排泄ができるように支援している。ご利用者の状況に合わせてパットの使い分けを行い、夜間の安眠にも配慮している。	排泄チェック表をバイタル表でデータ化し、日々のケアから、立てったり、ウロウロされ出したりする方のしぐさなどから察知しているので、日中は原則トイレで排泄をする。「先回りケア」が、尿便意が分からなくなった方へのトイレでの排泄回数の増加に貢献される事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や天気の良い日は施設周辺の散歩などの運動を取り入れたり、便秘症のご利用者にはご家族と相談し牛乳などを個別に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように支援している。入浴を拒否されるご利用者には、職員が代わり声掛けしたり時間をおいて誘導したり、入浴日を変更したりしている。	週3回。要望があれば、出来るだけ増やす事も出来る。嫌がる方には、日を変えたり職員を変えたりして、少しでも気分良く入浴出来る様に支援している。柚子湯が毎年の風物詩。家族の協力の下、毎週温泉に連れ出すケースもある。利用者は、異性介助も受け入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じた時間で入眠できるように支援している。日中も希望や体調に合わせて休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの名前を貼ったカップに薬を入れ準備している。服薬時には、日付け・名前や時間など声に出して誤薬を防ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を活かし得意なこと・好きなこと・できること等を提供できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出掛けたり近くのスーパーと一緒に掛けている。季節の花見は、コロナの状況があるため少人数で行っている。コロナが流行してからは外食には行っていない。	玄関は日中施錠しないので、利用者と共にいつでも、2～30分散歩に出かけられる。近所の方が野菜等の差し入れに来てくれたり、駐在さんが立ち寄ってくれたりするので、出入り業者と庭先で交流する事も日常。社長と管理者の「コロナでも閉じ込めるようなことはしたくない」との想いが具現化されていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を手持ちしたいと言うご利用者もあり、少額手持ちしているご利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、家族や大切な人に自ら電話をしているご利用者もいる。また、ご家族などから電話があった場合は職員が取り次ぎ、話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関には季節の花を飾ったり、夏には居間の窓の前面にすだれを立てかけ日差しを遮光し心地よく過ごせるようにしている。	玄関ホールが憩いの場で、訪問した時から、利用者は職員と肩を並べて歓談していた。若い男性職員が、まるで自分の祖母の爪切りをしているかのようにネイルケアをしている姿が印象的だった。共有フロアの利用者が作る作品は、毎月掛け替えられ、季節感を味わえる。利用者は、洗濯物を干したり、調理や盛り付けをしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、気の合ったご利用者で楽しく談話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオ・洋服掛け・椅子など、ご利用者が必要な物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるように努めている。家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持参してもらっている。	どの部屋も採光が均一に取り込める口の字型。利用者は、ラジオや好きな猫の写真の切り抜き、家族写真等を持ち込み、思い思いの部屋づくりをしている。居室には、介護ベッド・筆筒・カーテン・エアコン・寝具が備え付けられ、急な入居にも対応しやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室の場所が分かりやすいように、大きな文字で表示している。必要な箇所に手すりを設置したり、居室内のベットやタンスなどの位置を個々に合わせ、安全にできるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790800050
法人名	西野興産株式会社
事業所名	グループホーム やまもと
所在地	香川県三豊市山本町辻367-1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 8 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790800050-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790800050-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 17 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりのできることに目を向け、できることを行ってもらいながら日々の生活が楽しく送れるように支援している。  
 ・天気の良い日は、近隣を散歩し気分転換を図るとともに下肢筋力の維持に努めている。  
 ・玄関は日中は施錠をせず自由に入出りができるようにしている。  
 ・事業所の近くに畑を借り野菜作りをすることで、季節感や収穫の喜び・食材への話題が広がるように努めている。  
 ・地域の人は、畑のことを気にかけてくれたり、自宅で収穫した野菜を持ってきてくれる人もいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がベンチに腰掛け、挨拶をしてくれた事からスタートとなり、その利用者の上に大きく掲げられた理念が目に入り込んだ。聞く所に因ると、元教師の利用者が達筆に筆を走らせ、言葉らしくしたそうだった。また、リビングにて、サブタイトルの『今日も一日元気に笑顔で暮らしましょう！』と利用者大きな声で唱和して、明るく元気な一日を始めている。また、職員が貸して頂いた畑を耕せないと悲鳴を上げると、貸主や地域の方や近所の方が代打で手伝ってくれ収穫となった。そんな地域に巻き込まれ、繋がりを形作っている。コロナでも寒くても、外への散歩を当たり前に行っている利用者は、いっぱいの人に囲まれ、集ったり、心から支えられたりして、一歩、二歩、散歩と歴史を刻んでいた。職員や利用者から地域の人までが、理念の成文化まで参画しているところが驚きである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関に掲示している。居間には、サブタイトルを掲示し朝の体操後に唱和し、共有するようにしている。	理念は、利用者が筆文字で大きく書いて下さったものを玄関に掲示し、理念のサブタイトルをフロアに掲示して、毎朝、利用者と唱和して覇気を出そうと取り組んでいる。新入職者には、初日のオリエンテーションから、リーダーが1ヶ月付いて、理念に即した技術を学ばせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や、近隣の畑作業をする中で近隣の人と挨拶したり交流が持てるようにしている。地域の井出ざらえにも参加している。	開業10年の内に、近所の方が畑を無料で貸してくれる様になったり、自ら耕してくれて「はよ植えよう」、「これ植えよう」と玉ねぎや大根や百花等を植えたり、手入れや収穫をして、地域の方と馴染みの関係を深めている。庭の花を持って来てくれる近所の方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物に出掛け、挨拶や立ち話の中で、地域の人々に認知症になっても生き生き生活できることを理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の民生委員・地域包括支援センター・ご利用者やご家族に参加していただいているが、コロナ感染者が多いときにはご利用者やご家族には参加してもらわず少人数で行っている。事業所のサービスの向上に生かすようにしている。	隔月に開催を継続。利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター等が参加してくれる。民生委員は、行事を大切に思い、葉牡丹や旬の野菜を届けてくれる。民生委員が欠席する時は、元民生委員が代打を勤めてくれる。また、参加者が少ない時は、駐在さんに一声かけると、気軽に参加してくれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の入退の相談や困難事例については、市役所や地域包括支援センターに相談し助言を得るようにしている。	窓口は、管理者が行っている。何でも気軽に話せる関係が従来から築けている。特に地域包括支援センターは、運営推進会議に参加されるので、地域の情報を共有しやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠しておらず、外に出ようとする利用者には声掛けしたり、施設の周辺を一緒に散歩したり、さりげなく話題を変えるなどの工夫をしている。	研修は年2回開催して、外部研修に参加した職員が資料を独自に作成し、職員からアンケートを取る形式で、新しい情報や技術を周知し、職員と共有している。玄関は、19時から施錠し、徘徊の強い方は、ベッドの足元にセンサーマットを敷いて、職員が直ぐに駆けつけられる様にしている。	年度内に、もう1回研修をされるとの事なので、新たな手法として、on-lineを取り入れては如何でしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にご利用者の側に立ち、言葉遣いや態度に注意するように話し合っている。また、その都度注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、関係機関と相談しながら支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、ご利用者やご家族に納得が得られるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、ご利用者やご家族に出席してもらい、意見などを外部者へ表せる機会を設けるようにしている。また、面会時や電話にて家族に話が聞けるように努めている。	家族の意見は、面会の時に聞き取る。利用者とは、受診同時時や入浴タイム、共に行う調理や洗濯時、利用者と職員とで楽しむティータイム等で自然に話に花が咲き、次のケアに活かしている。困難な場合には、生活歴を読み解いたり、表情を見たり、家族に聞き取ったりして把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員のミーティングを行い、意見や提案を聞いている。	毎月の会議には社長も出席し、業務の話し合いが和気藹々となされる。年2回、社長との面談があり、処遇関係の話題、プライベートの話も、ざっくばらんに出来る。管理者は、ストレス緩和に努め、ゲートキーパー役の職員がいて、些細な事でも、管理者に届く風土となっている。	職員意見はよく聞いて改善しているが、個々の介護に対する考え方を相談する事によって、統一した介護が出来るなど、質を上げて行ったらどうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心は研修などを通して、各自が成長できるように支援していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加できるように配慮したいが、コロナの状況で研修も減っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や三豊事業者協会などの研修会に参加し、同業者と交流が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人とご家族に面談を行い、不安を少しでも解消できるように努めている。ご本人が入居について不安がある場合は、見学に来てもらったり、ご本人が希望する環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の話を十分聴き、信頼関係が築けるように努めている。できるだけ、ご家族の要望に添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人の納得が得られず入居し環境の変化などによって、精神状態が不安定になったり入居の継続が困難と思われる利用者には、在宅サービスを勧めたり居宅支援事業所を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事の盛り付けや身の回りの片づけ・洗濯干しや洗濯たたみなど、ご利用者が活躍できる場面で積極的に取り組めるよう手順を説明し環境を整えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ利用者の健康面や生活状況について近況報告し、家族間の交流が図れ関係が途切れることのない様に配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないように携帯電話を所持しているご利用者もいる。受診については、馴染みの病院へご家族に連れて行ってもらっている。	元民生委員や近所の畑の貸主や近隣住民や駐在さんが馴染みとなっていて、頻繁に散歩に出かけても安心できる。家族が通院を介助するついでに実家や馴染みの地域を通っている。また、リネン関係の業者さんや訪問理美容の方の出入り業者と挨拶や雑談も馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状に応じた支援によって、役割や活動で存在価値を高めたり、互いに助け合う場面では直ぐに介入せず見守り、ご利用者の考えや行動を尊重する支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、これまでの生活歴・趣味・職業などを把握し、その人らしい生活ができるように努めている。また、日々の生活の中でご利用者と話をして、希望や意向の把握に努めている。	「コロナで面会できなくなった妹に電話して欲しい」や、広告を見て、「ここへ行きたい」、「これが食べたい」等の意向を、散歩、日向ぼっこや入浴タイム、夜勤で個別ケアの時間に聞き取る場面が多い。困難な方は、表情やしぐさや生活歴を汲み取って把握しようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴などを把握するように努めている。また、ご利用者の会話の中で、これまでの暮らしの把握ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや一日の過ごし方を観察し、一人ひとりの現状の把握に努めている。ご本人のできることを、少しでも一緒にするように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、3ヶ月ごとにモニタリングを行って、介護計画に反映させている。月1回職員のミーティングを行って検討し、介護計画に反映している。	入居前に立てたプランを3ヶ月毎に、モニタリングとして見直す。この間に、状態や病状の変化に応じて見直している。担当者会議では、医師や看護師の意見も本人・家族と合わせて聞き取り、プランに盛り込んでいる。計画作成者は、ケアマネと担当の介護職員。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの実践や日々の様子を記入し、毎日の申し送りや申し送りノートで情報を共有しながらケアの実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な利用者には往診や理容訪問を行ってもらっている。また、コロナの感染者数が多いときやご家族が遠方にいる場合などで受診の付き添いができない場合は、受診の付き添いを職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの状況により、地域の祭りや行事などの中止が続いている。少人数でドライブに行ったり、近くのスーパーへ買い物に行くなど暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の意向を尊重して、かかりつけ医を決めており、受診はできるだけご家族にお願いしている。ご家族が都合つかず受診の付き添いができない場合は、職員が付き添って受診するようにしている。	かかりつけ医は、皆、馴染みの医師との関係を続けられる。出来るだけ、通院としており、原則、家族が介助していて、必要に応じて往診を頼んでいる。歯科のみ訪問している。どの医師とも何でも話せる関係が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ、状態の変化や異常に気付いた時は、看護師に相談し早期対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医や医療機関、ご家族と連絡をとりながら、ご利用者に安心していただけるように支援している。入院中は、少しでも早く退院できるように医療機関やご家族と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、入居時に事業所のできる範囲を説明し、ご本人やご家族と十分に話し合い、事業所ができる範囲の支援を行っている。	原則、看取りは行っていない。重度化が進めば入院や入所の便宜を図る旨を入居前の重要事項として説明している。年間研修計画に、勉強の場を位置付けており、利用者の高齢化・重度化に応じたケアの方法を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや緊急連絡網を整備し、年2回の防災訓練は、ご利用者と職員で行っているが、その他の対策は行っていない。	年2回、火災の訓練を昼夜想定で、防災メンテナンス業者立会いの下、利用者と一緒に、訓練は、マニュアルに添って行う。緊急連絡網を完備している。備蓄は、水と乾物、米、スナック菓子、衛生材料などを3日分程度用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人が生きてきた暮らし方や価値観を尊重し、敬意を持った関わり方や言葉かけを行うように努めている。	呼称は、苗字に「さん」を付ける。例外的に、家族に了解を得た上で、本人の馴染みの呼び方で呼ぶ事で、スムーズなケアに繋げている。入室時にはノックをして、一声かける。入浴時などは、極力、肌の露出を控えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定できるような声かけや場面作りを、できるだけ行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は、おおむね職員の働きかけで一日のリズムを作っているが、中でもご利用者のできる力を尊重して、ペースを合わせたり全体の調和を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やクリームを使っているご利用者には、声掛けして使って頂けるように支援している。また、入浴時や外出時には、衣服の選択を一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや洗い物・お膳拭きなどは、ご利用者と職員が一緒に行っている。畑で収穫した野菜の下処理をご利用者に行ってもらったり、収穫した野菜で漬物を作ったりしている。	三食手作りで、オルゴールのBGMを流しつつ、職員も一緒に食べている。本日のメインは、エビフライ。利用者は、箸も良く進み「美味しいですか？」の問いかけに、即「美味しいです」と返ってきた。畑の食材が食卓上がるのが日常。季節や行事に即した旬の食材や献立が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事や水分量を記入し、栄養不足や脱水にならないように気を配り、職員間で情報を共有するようにしている。食事量や水分量が少ないご利用者には、ご家族と相談して個別に食べれるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができるご利用者には毎食後、声掛けや誘導して行ってもらうようにしている。介助が必要なご利用者は、職員の介助により行うようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声掛けや誘導・介助にて、できるだけトイレにて排泄ができるように支援している。ご利用者の状況に合わせてパットの使い分けを行い、夜間の安眠にも配慮している。	排泄チェック表をバイタル表でデータ化し、日々のケアから、立てったり、ウロウロされ出したりする方のしぐさなどから察知しているので、日中は原則トイレで排泄をする。「先回りケア」が、尿便意が分からなくなった方へのトイレでの排泄回数の増加に貢献される事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や天気の良い日は施設周辺の散歩などの運動を取り入れたり、便秘症のご利用者にはご家族と相談し牛乳などを個別に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴ができるように支援している。入浴を拒否されるご利用者には、職員が代わり声掛けしたり時間をおいて誘導したり、入浴日を変更したりしている。	週3回。要望があれば、出来るだけ増やす事も出来る。嫌がる方には、日を変えたり職員を変えたりして、少しでも気分良く入浴出来る様に支援している。柚子湯が毎年の風物詩。家族の協力の下、毎週温泉に連れ出すケースもある。利用者は、異性介助も受け入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者に応じた時間で入眠できるように支援している。日中も希望や体調に合わせて休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの名前を貼ったカップに薬を入れ準備している。服薬時には、日付け・名前や時間など声に出して誤薬を防ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を活かし得意なこと・好きなこと・できること等を提供できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出掛けたり近くのスーパーと一緒に掛けている。季節の花見は、コロナの状況があるため少人数で行っている。コロナが流行してからは外食には行っていない。	玄関は日中施錠しないので、利用者と共にいつでも、2～30分散歩に出かけられる。近所の方が野菜等の差し入れに来てくれたり、駐在さんが立ち寄ってくれたりするので、出入り業者と庭先で交流する事も日常。社長と管理者の「コロナでも閉じ込めるようなことはしたくない」との想いが具現化されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を手持ちしたいと言うご利用者もあり、少額手持ちしているご利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、家族や大切な人に自ら電話をしているご利用者もいる。また、ご家族などから電話があった場合は職員が取り次ぎ、話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関には季節の花を飾ったり、夏には居間の窓の前面にすだれを立てかけ日差しを遮光し心地よく過ごせるようにしている。	玄関ホールが憩いの場で、訪問した時から、利用者は職員と肩を並べて歓談していた。若い男性職員が、まるで自分の祖母の爪切りをしているかのようにネイルケアをしている姿が印象的だった。共有フロアの利用者が作る作品は、毎月掛け替えられ、季節感を味わえる。利用者は、洗濯物を干したり、調理や盛り付けをしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、気の合ったご利用者で楽しく談話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオ・洋服掛け・椅子など、ご利用者が必要な物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるように努めている。家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持参してもらっている。	どの部屋も採光が均一に取り込める口の字型。利用者は、ラジオや好きな猫の写真の切り抜き、家族写真等を持ち込み、思い思いの部屋づくりをしている。居室には、介護ベッド・筆筒・カーテン・エアコン・寝具が備え付けられ、急な入居にも対応しやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室の場所が分かりやすいように、大きな文字で表示している。必要な箇所に手すりを設置したり、居室内のベットやタンスなどの位置を個々に合わせ、安全にできるだけ自立した生活が送れるように支援している。		